

地域密着型サービス評価の自己評価票

(☐ 部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる		
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	各ユニット、月1回のミーティングにて地域に対し貢献できることがないか話し合い、自治会総会の場合ではご案内している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価内容に対しては全スタッフと話し合い、またご家族様にも意見を頂き当事業所の考え方にて対応している。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は以前2回しか開催しておらず定着していない。	○	今後2ヶ月に1度開催することを定着させ、警察・消防・主治医等の参加も呼びかけ運営推進会議そのものから意義あるものが生まれるよう努めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当事業所においては市への介護申請もサービスとして行っており市役所へ出向いた際には必ず担当者と情報を共有し市役所側からの提言・助言をいただき、またグループホーム側からの提言・助言を行い、サービスの質の向上に努めている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	それぞれの勉強会・研修会には積極的に参加し、また朝礼、ミーティングにて発表し当事業所としての意向を共有し必要な方には提言・助言を行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会・研修会に積極的に参加しミーティング・朝礼にて発表し精神的虐待も含め完全防止に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を实践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には書類を持ち合わせ十分な説明を行い、理解・納得をしていただいている。また、疑問をお持ちになった際には随時お答えして納得いただいている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご利用者様からの意見や不満は随時お聞きしておりご家族、隣近所の方々の来苑もあり、指摘された事項についてはスタッフ全員で考え対応している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	暮らしぶりについては3ヶ月に1度のホーム便りにて、健康状態については随時、金銭管理についてはご利用料請求時に金銭出納にて、職員の異動についてはホーム便りにて報告している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各ご利用者様に担当者スタッフを1人決めておりご家族様の面会時には日頃のご様子を説明し、ご家族様が意見を申し出しやすい環境作りに努めている。また、家族会資料等に市役所・国保連の電話番号を記載し相談していただけるよう努めている。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝礼、ミーティングにて職員からの提言を随時伺っており、1つの提言には職員全員に呼びかけ反映している。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	事業運営的には苦しい面もあるが、職員は『宝』にとらえ多めに雇用しており、ご利用者様の状況等により柔軟に勤務調整を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	グループホームでは職員とご利用様の馴染みの関係は大前提である。異動はユニット毎で行い、出勤、退勤時には必ず他のユニットに挨拶に向くようにしている。離職についてはご利用様のダメージを最低限にするように努力している。		
19	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	採用に当たっては性別や年齢によって決定することはないが、やる気がある方なのか、どのような意思の元で介護に携わろうとしているのかによっては区別している。現職員については個人の能力に応じ決定権を持ってもらい当事業所を担う一員として責任ある行動を行うよう配慮している。		
20	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	勉強会・研修会に積極的に参加し、朝礼・ミーティング時に発表し意思の統一を図っている。		
21	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員には各種勉強会や研修会への参加を勧めており事業所として交通費の全額支給、講習料の半額支給を行っており、職員の各自技術の向上に努めている。		
22	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームの夏祭りに参加させていただいたり、スタッフ同士の食事会等を企画し、お互いのサービスの向上に向け話せる機会を持っている。		
23	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレスの原因には職員数も起因していると捉え職員数の確保に努めている。また忘年会、夏の飲み会をユニット毎で行っている。地域勤労者サービスに加入し各種サービスが受けられるよう取り組んでいる。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年2回職員に自己評価を提出してもらい、グループホームで働く意義、問題点と自己目標を明確にしてもらい業務を行ってもらっている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話ではなかなか伝わらないために見学などを通して実際に会ってご本人の不安や抱えている問題、悩みなどをお聞きしている。また、ご本人の口から出た言葉を大切に受け止める努力もしている。		
26	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	電話で相談を受けたり、直接会って相談を受けたりして、困っていること、不安なこと、求めていること等を良く聞くようにしている。また、見学していただくことで現場を見て、その現場で感じることや質問なども良く聞き受け止める努力をしている。		
27	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受ける際、ホーム長・ケアマネージャー・看護師も同席するようにし、相談やご本人の状況を聞いたうえで必要としている支援や介護の方法を見極めるなどの対応に努めている。		
28	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ご本人やご家族の話などを聞き、見学していただく。その後に日中の雰囲気を見ていただくために昼食を入居者の方々と一緒にとっていただき、少しでもなれていただく。その後、2泊3日の体験入居もして頂き1日を通しての雰囲気もつかんでいただき、その後にご入居か否かの決断をしていただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に生活していく家族として日常で起こることに対して喜怒哀楽を通じて共感し、信頼関係を築いている。また、敬うべき年長者として接することによって教えていただくという姿勢を職員一人ひとりが心に留めることによってご本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時にご本人の現状などを報告したり要望をお聞きしたりしている。また、誕生会や季節のイベント(母・父の日、敬老会など)に参加していただくなどを通じて一緒に過ごす時間を多く持てるようにして、ご本人、家族、職員の信頼関係を築いていくことで一緒にご本人を支えていく関係をも築けるように努めている。		
31	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族の方に、ご本人の生活暦を書いていただける範囲で書いていただき、それによりご本人の生活暦を職員が知ることでご本人とご家族の関係を知り、面会などでも色々な情報を共有しあうことで新たな関係に気付かされたり、より良い関係が築けるように心掛けている。		
32	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	誰でも、気軽に面会に来ていただけるような雰囲気作りに努め、なかなか会えないご家族には葉書や手紙、メールなどで近況を報告している。		
33	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に歌を歌ったり、ボールで遊んだりして、楽しい時間を共有していただき、一緒に生活して楽しい仲間だということを認識していただいている。また、各々が出来ることを手伝っていただき、共同生活において支え合って生活しているという気持ちを持っていただけるようにしている。そのため、職員が日々の観察や一人ひとりの性格などを考慮した上で利用者同士の関係を支援できるように努めている。		
34	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	ターミナルを経て亡くなられた方がいても四十九日や一周忌など葉書や手紙を出すなどして、つながりを持てるような付き合いを大切にしており、ご家族様からはご利用者様がグループホームとご家族を繋いでくれたと感謝の言葉を頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	昔使われていた家具などを持ってきていただいたり、家族の写真を飾られたりと居室をご本人の家のように安心して暮らせるように工夫している。また、思いや暮らしの希望などがあれば、出来る範囲で実現させるように努めている。困難な場合はご家族の希望を考慮したうえでより良い暮らしが出来るようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族、キーパーソンの方に『今までの生活歴』を記入して頂き、生活歴、職歴、趣味、ご入居までの経緯をよく把握した上で介護にあたっている。また、ご入居の面接時にも生活歴をお聞きしている。		
37	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	全スタッフが詳細な介護記録を記入し、その方の心身の状態の変化などの把握に努めている。また申し送りノートを使用し全スタッフが始業時に目を通し、変化などを把握できるように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	ご本人の意見を聞き出すことは困難な場合も多いが、ご家族にはケアプランを手渡す際や面会時にご意見やご要望をお聞きするようにしている。毎月1回各ユニットで行っているミーティングにてスタッフの意見を出し合って介護計画に反映している。		
39	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	基本的には3ヶ月に1回の介護計画の見直しを行い、身体の状態の変化があった場合にはその都度、計画の立て直しを行っている。		
40	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は詳細に介護記録、申し送りノートに記入しスタッフが共有し、その記録を基にして計画の見直し時に活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご利用者の体調に応じて協力いただいている主治医とグループホーム、ご家族と協議し医療施設への入院、手術等の決定を支援している。また、退院後は当グループホームにて以前と同様の生活が出来るように支援している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している		
43	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている		
44	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○	運営推進会議には参加していただいているがグループホーム内の他の行事(誕生会・敬老会)にも参加を呼びかけ地域の一人であることで協働していきたい。
45	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している		
46	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している		
47	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	ご入居者が入院された際にはスタッフ(主にホーム長)が病院へ行き状態を把握したり、病院からの説明を家族と共に聞き、情報を得て、他のスタッフに伝えている。退院後の対応もきちんとできるようにしている。		
49	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化になられた際の指針を定め当事業所の捉え方をご家族に説明している。その際、終末期に向け伺いはするが、ご家族間でも意見の相違があり、決定はせず、状態の変化によって話を繰り返し、最終的な決断をいただいている。その決断によって、職員間で方針を共有している。		
50	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	当事業所ではお看取りまで支援させていただくこの方針に向けて、ミーティングにて協議している。終末期に入られた際には、協力いただいている主治医の依頼により訪問看護ステーションより点滴に来ていただいている。		
51	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	新しい方がご入居される際にはケアマネージャー、ご家族、ご本人などから十分な情報を得、スタッフ全員に申し送り、情報交換を行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
52	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりに合わせた対応を行い、プライバシーを守りケアを行っている。スタッフ同士で意見の交換を行い共有している。また、個人情報苑外に出ないように配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	ご本人が思いや希望を表せるように質問したり選択肢を多く出し、ご自分で決めていただいている。一人ひとりの力に合わせてじっくり説明し支援している。		
54	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は一人ひとりのペースを大切にし、無理に要求せずご本人の希望があれば出来る限り希望に沿って支援し、なければ1日を充実して過ごしていただこうに会話や体操、歌などで楽しんでいただいている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	ご本人の要望があれば身だしなみやおしゃれが出来るように衣類を準備し、なければご家族に相談し用意して頂いている。スタッフは季節に応じた服装をして頂くように声かけしている。理容、美容はご本人の望む店に行っていけるようにし、また苑にも2ヶ月1回理容師に来ていただき、希望者は散髪していただいている。		
56	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるように一人ひとり健康面を考え、また、献立に取り入れてもらいたいものを聞き献立を決定している。出来るご入居者には一緒にテーブル拭きや片付けをして頂き、食事中はスタッフも一緒に話をしながら楽しく食事をしている。		
57	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	お酒やタバコは現在のところ、どなたもされておられない。おやつでは、甘いものや、おせんべいなどを用意し、手作りのおやつではホットケーキ、フルーツヨーグルト、団子、果物などで対応している。	○	以前タバコをすっておられたご入居者がおられたが、ご家族様から『80歳を越えてまでタバコをすって欲しくない』との申し出があり、スタッフもその意見を尊重し、ご入居者には説明、納得していただきタバコはここ2年ほどやめられている。
58	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	ご入居者一人ひとりの排泄パターンを把握し失禁や排泄の失敗を減らすために排尿間隔の長い方には声かけにて2～3時間の間隔でトイレ誘導を行っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	ご入居者の体調に合わせて2日おきに入浴していただくようしている。スタッフはご入居者と話をしながら、時間にゆとりを持って入浴を楽しめるように支援している。		
60	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の状況に応じて、眠くなく、目が冴えている方は無理に布団に休んでもらわず、眠くなるまでスタッフと会話をしたり、テレビを観て過ごしていただいている。寝具は週1回交換し、また汚染時にはすぐに交換し清潔を保ち、季節に合わせて毛布、布団を調節している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、毎日喜びのある日々を送って頂くようご入居者の力を生かして、役割、楽しみごとに向けて支援している。		
62	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	幻覚や妄想がある方が多く、ご本人では金銭管理が困難のため金銭は事務所にて管理しているが、散歩の際にコンビニエンスストア等に立ち寄りお預りしているお金からお菓子を買って、そのお菓子を苑内で他入居者に配り、皆で楽しませている。		
63	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の天候にあわせ、苑の近所を散歩している。季節の行事があれば、話し合いを持ち、介護タクシーを利用し、戸外に出かけられるようにしている。		
64	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	他入居者とのトラブルによる不穏が見られた際には事業所の車にて個別に外出し、行ってみたい場所など伺いながら、ドライブをしている。また、ご家族と出かけられる際には、薬の準備や、体調の説明を行っている。その他、季節ごとにご入居者様全員と、ご家族もお誘いして外出し、花見(桜・コスモス)やバスハイク(八女人形会館・伝統工芸館など)を企画し、楽しんでいただいている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご入居者より希望がある際は、ご家族に電話をして頂くよう対応している。暑中見舞い、年賀状はなるべくご自分で書いていただき、郵送している。		
66	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会にはいつでもお越しいただけるよう声かけを行っており、面会時にはご利用者との時間を共に楽しんでいただけるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などは一切行いません。	○	身体拘束に対する勉強会、研修会に積極的に参加し、参加したスタッフは、ミーティングや、朝礼にて発表し、スタッフ全員の共通の理念としている。
68	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関は開錠しているが、各ユニットの入り口は施錠している。	○	鍵をかけることの弊害は十分理解しているが、防犯上また、他のグループホームで、夕暮れ時に入居者が外へ出られ、翌日川で亡くなられた等の事故もあり、施錠している。鍵をかけていることについてはご家族には、家族会にて意向を伺っており、賛成の意を伺っている。
69	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	昼は常に利用者の側で安全に配慮し、夜は2時間毎に見回りを行い、ご本人の状態によっては30分毎に見回り、状態確認を行っている。		
70	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	はさみ、針、工具など利用者の希望に応じてその都度スタッフが用意しており、終わり次第、また預かる形をとっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	十分ではないがマニュアルを作っている。事故防止のためスタッフ同士で情報交換し、一人ひとりに合わせた介護を行っている。	○	マニュアルを十分なものに近づけていきたい。
72	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	全ての職員の訓練は行えていない。	○	消防と協力し職員全員が最低限普通救命を持てるよう、受講日程の調節等を行っていききたい。
73	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	避難訓練を行い、スタッフ全員が参加するようにしている。火災時のマニュアルを作成し見やすいところに貼っている。また、運営推進会議の中で、消防より火災発生時の地域住民の方々の協力体制の重要性について講演いただいた。		
74	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	ご入居時に転倒、誤嚥などの高齢者の特性についてご家族に説明し、ご入居後もその都度、現在の状態を説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	1日2回のバイタル測定を行い、変化があるときは再検を行い、スタッフ全員に申し送り注意するようにしている。		
76	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の内容、効果、副作用を記載している用紙をスタッフがいつでも見れる場所にファイルしている。薬の変更時、注意する点などをスタッフ全員に申し送りし、十分に注意している。処方された薬は日付、名前、いつ飲むのかを記入し、全スタッフがわかる様に管理している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	ご入居者の便の回数、量、状態を介護記録に記入し1日のトータルの回数を表に書き、排便状態の確認を一目でわかるようにしており、下剤のコントロール、主治医への報告、指示、看護師による摘便を行っている。また、便秘予防として積極的に散歩や体操を促している。		
78	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後に口腔ケアを行い、一人ひとりの状態に合わせた介助を行っている。口腔トラブル時は歯科医に連絡を取り往診していただき指示を受けている。		
79	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その方の状態に合わせて、刻みなどの対応を行っている。水分も十分に取れるよう食事以外でも水分補給を行い、水分摂取に努めている。また、尿の色等により、水分補給量が少ないと見られた際には摂っていただいている水分を計測し、目標を定めより多くの水分を摂っていただくように努めている。		
80	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルをつくり、スタッフがいつでも見られるようにしている。フロアの入り口に消毒液を用意しており、スタッフはもちろん面会の方にも、入る前に消毒していただきまた、食事前には手洗い、消毒を施行している。外出からの帰苑後も、うがい、手洗いを徹底して行っている。		
81	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	全スタッフが調理器具などの清潔を保ち、食材も新鮮なものを使用するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
82	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花や木を植え、家のように親しみのある玄関になるようにしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には花や季節を感じる飾りをしている。廊下、台所は清潔と危険がない様に配慮している。リビングは、音楽が流れ、笑い声があふれ、心が落ち着く配慮を行っている。浴室・トイレは家庭のように暖かで、手すりがあり、いつも清潔を保っている。		
84	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子、テーブルのほかに寛げるソファを用意している。畳の場所もあり、ご利用者様は思い思いにテレビを見たり、ソファで話をしたり、ゆっくりとした時間を過ごしていただいている。		
85	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室はご利用者の日常に合わせてフローリングにベット、また畳にお布団と希望やご入居以前の生活に沿って用意し、自宅で使い慣れた家具を置いていただいている。テレビやラジオも自由に楽しまれている。		
86	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	換気は常に行っているが、他にも朝は窓を開放している。外気にあわせて温度調節は万全に行っている。各居室にも冷暖房が用意されており、温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部は各所に手すりがあり、床は全て、バリアフリーになっている。車椅子も安全に自在に動かしておられる。		
88	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ご入居者の能力に合わせた個別リハビリを行っており、歩行練習・起立練習のほかにも、生活リハビリとして掃除のできる方、洗濯物の整理などご自分のできる力を発揮していただけるように工夫している。		
89	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	建物の周りは野菜や草花を植え、野菜が実ったら収穫し、料理して、全員で食べたり、花が咲けば見事な色を褒めあったり和やかに暮らせるよう支援している。		

V. サービスの成果に関する項目			
項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、活き活きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

私達は、暖かい家庭的な雰囲気の中で、ご利用者の尊厳を大切にしつつ共に暮らしながら、心からのケアに務めます。そのためにスタッフ一同相協力しあって、ご家族や地域との交流の中にも、安心と安らぎのあるホームを目指します。人間も生物の一種。生まれ生きて死んでゆく生物でしかありません。生物学的に言うならば、どんな動物でも一生涯の心拍数はそう変わらないとの事。象にしろ蟻にしろ。ともすれば、人間も同じ動物としてこの世に生を受けているわけで、他の動物と心拍数を照らし合わせると人間の寿命は60くらい。しかし人間は食物の多様化・医療の発達により、動物として生きる時間をはるかに越え生きているわけです。人はこの世に生を受け、学習し、食事をし、排泄をし、睡眠を取り、当たり前日々の生活を楽しんでいます。勉強するのも当たり前、食事をする事も当たり前、排泄をするのも当たり前、睡眠を取るのも当たり前、1年1年歳を取っていくのも当たり前のこと。私共のグループホームでは80歳・90歳代の方々が多く共に生活されています。80年も90年も人間をやってこられた方々です。認知症状がでてこられても当たり前、身体が弱られても当たり前ではないのでしょうか。「当たり前」にできていたことが80年・90年も人間をやってこられた方々が一人では出来なくなれるのもまた、当たり前ではないのでしょうか。一人では出来なくなれた高齢の方がいれば、お手伝いの出来る人がお手伝いをするのは、また当たり前ではないのでしょうか。社会の変化により何世代と一緒に暮らす生活から、核家族化が進み、お世話をしたくても出来ない状況にあるご家族様がどれだけおられることでしょうか。私共は介護保険の事業所として、この当たりの、そして「疑似家族」としてご利用者様の生活のお世話をさせていただいております。